令和５年産 大豆栽培ごよみ

三井地区農業振興協議会
ＪＡみい
久留米普及指導センター
令和５年５月作成

増収と品質向上のポイント

- 作付の団地化と排水対策
- 適期適量播種（7月20日までに播種完了）
- 中耕・培土の徹底（生育促進と倒伏防止）
- 除草と病害虫防除の徹底

※こよみを遵守した栽培管理に努めましょう。（全農安心システム）

運動の目標 三井地区大豆生産性向上運動

① 単収の向上：10a当り270kg
② 団地化率の向上：100％
③ 品質の向上：上位等級（1、2等）比率90％以上
④ 種子更新率：100％
⑤ 栽培履歴（作業管理日誌）の記帳、提出

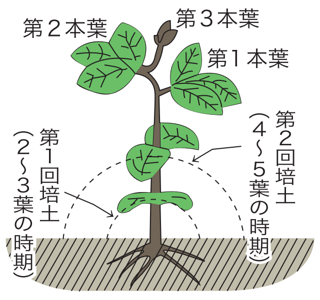
月	6			7			8			9			10			11		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

生育相

- 播種適期（7月中旬）
- 茎葉・生育期（7月上旬～8月下旬）
- 開花期（8月下旬）
- 幼莢期（9月上旬～中旬）
- 子実肥大期（9月中旬～10月下旬）
- 収穫期（11月中旬）

主な作業

- 麦ワラすき込み
- 種子消毒
- 土壌改良資材の施用
- 耕起整地・作溝
- 播種・施肥
- 除草剤散布
- 第1回 中耕培土（播種後15日頃）
- 第2回 中耕培土（播種後25～30日頃）
- 病害虫防除（ハスモンヨトウ）
- 病害虫防除（ハスモンヨトウ・紫斑病・カメムシ類）
- 青立ち株 雑草の抜き取り
- コンバイン収穫



※大豆のうね間かん水

① 大豆は開花期から莢の伸長、肥大期までが乾燥に最も弱い時期です。
② うね間かん水は、ほ場の土壌表面が白乾し始めた頃から開始します。
③ 高温の日中は避け、短時間で水が行き渡るようにうね溝を落水口につなぎます。
④ 水が停滞すると湿害を起こすので、水が行き渡ったら速やかに排水する。

土づくりと排水対策

① 排水不良田では生育が著しく不良となるので、湿害回避のためプラウ耕・弾丸暗きょ排水などを行うとともに大豆ほ場の団地化を図りましょう。
② 土壌酸度の矯正には生石灰100kg／10aを施用しましょう。
大豆の連作田はミネラルG200kg／10a又は炭酸苦土石灰100kg／10aを施用しましょう。
③ 湿害対策における畦立て播種について
培土板の使用やロータリー爪の付け替えにより畦立て播種等を行うなど、排水対策を行いましょう。
畦立て播種の場合、播種深度が適正に保てるよう注意してください。

種子の準備

① 全量種子更新
② 紫斑病予防、ハト害対策をかね、種子10kgに対し、キヒゲンR-2フロアブル200㎖を、播種前に塗抹処理しましょう。

栽培様式基準

栽培密度＼播種時期	早 播	適期播	遅 播
	7月6日～10日	7月11日～20日	7月21日～31日
条間×株間（cm）	70×25	70×20	70×（15～10）
㎡当り株数（×2粒）	5.7株	7.1株	9.5株～14.3株
播種量（kg/10a）	3.5	4.5	6.0～9.0

※播種深度：除草剤の影響等を考慮し、３センチ程度の深度で播種しましょう。
梅雨時期のため、天候に考慮し、適期播種できるよう早めに準備をしましょう。
土壌が乾燥している場合は、播種深度を5～6センチ程度とし鎮圧を行ってください。

施肥基準

10a当り

肥料名	基肥量
ちくごのめぐみ444	15kg

※生育不良田については開花期までにNK化成2号を10kg施用しましょう。

除草剤使用基準

（使用薬剤については記載事項を厳守すること）

区分	除草剤名	使用量／10a 薬量	使用量／10a 希釈水量	適用雑草	使用時期
初期除草剤	ラクサー乳剤	500㎖	100ℓ	一年生雑草	播種後出芽前（雑草発生前まで）
	エコトップＰ乳剤	500㎖	100ℓ	一年生雑草	播種後出芽前（雑草発生前まで）
	クリアターン細粒剤Ｆ	4～5kg		一年生雑草	播種後出芽前（雑草発生前まで）
	エコトップＰ細粒剤Ｆ	4～6kg		一年生雑草	播種後出芽前（雑草発生前まで）
生育期除草剤	ポルトフロアブル	300㎖	100ℓ	イネ科雑草（イネ科雑草3葉期～10葉期まで）	収穫30日前まで
	パワーガイザー液剤	300㎖	100ℓ	一年生雑草（雑草発生始期～2葉期）	出芽直前～3葉期まで
	アタックショット乳剤	50㎖	100ℓ	広葉雑草	本葉2葉期～開花前

※アタックショット乳剤の使用により、大豆の葉に褐斑、黄変、縮葉、落葉などの薬害が生じる事があります。
※パワーガイザー液剤の使用により、黄化等が発生することがあります。

大豆病害虫防除

（使用薬剤については記載事項を厳守すること）

防除時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	使用回数	備考
8月中旬～下旬ごろ	ハスモンヨトウ	・ノーモルト乳剤 または、 ・トルネードエースDF	2000倍	2回以内	早期発見、早期防除に努めましょう
9月中旬～下旬ごろ	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4000倍	2回以内	幼莢期から子実肥大期の病害虫防除
	カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	2回以内	
	紫斑病	トップジンＭ水和剤	1000倍	4回以内	
10月中旬ごろ	カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	2回以内	

※子葉展開期（播種時～本葉２葉期）にネキリムシの食害がみられた場合は、ネキリエースＫを10a当り3kg散布してください。

収 穫

① コンバインでの収穫は、成熟期から１週間位後、子実水分15％が適する。（手で折り曲げると茎がパキッと音を立てる程度）
② 成熟期とは、大部分の葉が落ち、莢が褐変し、振れば「カラ・カラ」音がするようになった頃です。
③ 汚損粒防止のため青立ち株及び雑草（ホオズキ・アサガオなど）は収穫２週間前までに抜き取りましょう。

品種の特性

品種名	播種期 月 日	開花期 月 日	成熟期 月 日	花色	主茎長 cm	耐倒伏性	耐病性	10a当り収量 kg	品質	百粒重 g	へその色
フクユタカ	7.10	8.19	11.3	紫	70	中	強	339	中上	30.9	淡褐

農薬の登録内容は随時変更されますので、使用する際にはラベルをよく確認して下さい。
周辺作物へ農薬が飛散しないように注意しましょう。

・ＪＡみい 営農センター TEL.0942（78）3035 ・久留米普及指導センター TEL.0942（47）5101